向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.6　2013 年 9 月 1 日発行

現在の寒水石（大理石）採掘場　茨城県常陸太田市真弓町（2012 年 12 月 22 日撮影）

「向岡記」碑の石材　寒水石を産出した常陸太田市真弓町

2012 年 12 月 15・22 日、茨城県常陸太田市真弓町の寒水石（大理石）を産出している真弓山の調査へ行きました。真弓山は多賀山地の南端に位置する標高 280m の山で正式には「陣ヶ峯」と呼ばれています。真弓山は水戸市街から望む事ができます。真弓山には大同 2 年（807 年）創建と伝えられる真弓神社があます。農業、漁業関係者など多くの人々に信仰されており、佐竹家、水戸徳川家とかかわりが深い。徳川齊昭が建立した「向岡記」碑の石材は真弓山で産出した寒水石（大理石）です。江戸時代、

寒水石は水戸藩の特産で許可なしでは採石できない「御用石」で、山は「御留山」として管理されていました。寒水石は、弘道館の「弘道館記」碑、水戸藩支藩 守山藩上屋敷跡 筑波大学東京キャンパス文京校舎敷地内の徳川齊脩歌碑、水戸藩小梅邸跡地（下屋敷）の墨田公園に建立されている藤田東湖の「天地正大気」碑、水戸偕楽園の吐玉泉などに使用されています。現在、寒水石は建築材料、建物の装飾、セメント原料などに使用されています。

真弓町の調査

12 月 15 日は常磐線大甕（おおみか）駅から風神山を経由し真弓神社にお参りしました。風神山山頂の風神碑（寒水石製）と雷神碑の周りは掃き清められていました。真弓神社近く、鉱山へ続く林道は、トラックからこぼれた寒水石で白くなっていました。真弓神社参道では寒水石の岩盤が観察でき、石垣などに寒水石が使用されていました。

12 月 22 日は 15 日に悪天候のため撮影できなかった鉱山の写真を撮影。真弓神社社務所で宮司の斎藤学さんにお話をうかがいました。東大の「向岡記」碑についてはご存知なかったそうです。案内板・解説板設置を担当された真弓町会前町会長の黒澤一治さんを紹介していただきました。市内で水戸八景の「山寺晩鐘」碑、「太田落雁」碑を見学し、常陸太田市郷土資料館本館で展示を見学、教育委員会の西野保さんにお話をうかがいました。

真弓町会の設置した解説板

真弓町会の案内版・解説板は参道の石造物、鳥居などに設置されています。

【真弓山の白い石（由来）その一】

「真弓山は標高二八〇メートルの山で、山頂に真弓神社があります。むかし、奥州征伐に向かう源頼義、義家父子が、この山にしばらくこもり戦勝祈願をしたことから、「陣ヶ峠」と呼ばれ、また凱旋のおり、朱塗りの弓を奉納したので、「真弓山」の名が付いたともいわれています。

この山から産出する質の高い大理石は、「真弓山の大理石」「水戸の寒水石」と呼ばれ、かつて、水戸藩領の特産品でした。

寒水石の名は、この時の義家に由来しているという説があります。それは、当時十四歳だった義家は出陣に際し十五歳のほうが勝運があるといわれたため、急遽六月一日を元旦として年越しの祝いをすることになりました。ところがその祝いの最中、突然、季節はずれの雪が降り始め、頼義、義家父子は、「これは吉兆、我々の勝利は疑いなし」と決戦前の兵士たちと励まし、奮い立たせて奥州へと向かいました。兵士たち騎上の馬も勢いづき降り積もる雪を蹴り立てて山を降りていったので、この時、馬が踏み固めた雪が大理石に変わり、寒水石と呼ばれるようになったといわれています。

また、真弓山に棲む天狗はこの美しい石が大好きで、この石を持ち去るものには必ず仕返しをするという伝説も残っています。　真弓町会」

真弓山の源頼義、義家父子の伝説は、徳川齊昭が視察に訪れた茨城県大子町の月居山にも伝えられています。「向岡記」碑には義家が奥州征伐の際、鎧をかけた向ヶ岡の松について刻まれています。真弓町だけでなく、水戸徳川家ゆかりの地に源頼義、義家父子の伝説が残っているのは興味深いです。

碑の石材を産出した真弓山へはなかなか行く事ができませんでしたが、ようやく調査に行く事ができました。昨年は東日本大震災で被災した真弓神社周辺の復旧工事が行われていました。現在はさらに復旧が進んでいるのではないでしょうか。真弓町では向ヶ岡弥生町と同じく町の歴史を大切にしていることを知ることができました。

風神山　風神碑（寒水石製）茨城県常陸太田市大森町

真弓山の鉱山へ続く林道　路面は寒水石で覆われる

「真弓山ハイキングコース総合案内板」 真弓町会設置

「真弓神社入口」碑（寒水石製）

真弓神社本殿　茨城県常陸太田市真弓町陣ケ峰 2766

真弓神社社務所の本殿　茨城県常陸太田市真弓町 2255

本殿からの眺望

真弓神社社務所の手水鉢（寒水石製）

謝辞

真弓町の調査とニュースレター作成にあたり、斎藤学さん（真弓神社）、黒澤一治さん（真弓町会）、西野保さん（常陸太田市教育委員会）にお世話になりました。

町田聡さん（文京区教育委員会）には徳川齊脩歌碑の調査成果について教授いただきました。

参考文献

茨城県 1970『茨城県史料　近世政治編Ⅰ』

中村俊也 1976「旧守山藩邸内碑文」『桐葉№60』

常陸太田市史編さん委員会編・常陸太田市役所発行 1984『常陸太田市史　通史編　上巻』

常陸太田の自然調査編集委員会編修・常陸太田市教育委員会発行 1999『常陸太田の自然Ⅱ　～里川流域とその周辺の自然と環境～』

大甕駅～真弓山～大甕駅　白い部分は大理石鉱山
2012 年 12 月 15 日の調査経路

大甕駅～真弓神社社務所～常陸太田駅
2012 年 12 月 22 日の調査経路

「向岡記」碑　東京大学浅野地区情報基盤センター
白い寒水石が風化と排ガスで黒くなっています

徳川齊脩歌碑　筑波大学東京キャンパス文京校舎
守山藩上屋敷跡　東京都文京区大塚 3−29−1

【徳川齊脩歌碑について】　徳川齊脩歌碑は、文政 10 年（1828）11 月の小石川水戸藩上屋敷の罹災により、藩主齋脩・夫人峰姫らが幕命により大塚の守山藩上屋敷へと一時移り住んでいたことを伝える碑。碑文は、江戸の三名園の一つとして知られる守山藩上屋敷内の春占園の景観を称えて詠んだ七言律詩が刻まれています。碑の石材は『続水戸紀年』等の史料に、文政 11 年（1829）に齋脩の撰文に寒水石を用いて建立されたと記されています（町田聡さん作成資料より作成）。

編集後記

真弓町では寒水石製の墓石・石仏を見かけました。酸性雨等による風化は進行していないように見えましたが表面の風化はあるようです。

寒水石製の「山寺晩鐘」の表面の風化が問題になっているそうです。

VOL.5 の誤植訂正
2p 左 22 行目「昭和 39 年（1964）」
2p 左 32 行目「昭和 32 年（1935）」

向ヶ岡弥生町
News Letter
VOL.6　2013 年 9 月 1 日発行

発行　原　祐一
連絡先　〒153-8904
東京都目黒区駒場 4-6-1　東京大学埋蔵文化財調査
携帯　080-5504-9782
メール　y-hara@dolphin.ocn.ne.jp

印刷　株式会社　芳文社
〒194-0037
東京都町田市木曽西 2-3-14　電話　042-792-3100